

## HAT 神戸 脇浜海岸通



「HAT 神戸」とは東部新都心の愛称で、「HAT」は「Happy Active Town」の頭文字を組み合わせたもの。摩耶山の南、ウォーターフロントに開けるこの地域が、ハッと変貌し、誰もが幸福で、活気あふれる街となるように願いを込めて命名された。この HAT 神戸は、神戸市中央区東部から灘区西部にかけての臨海部における大規模工場の遊休化などに伴う土地利用転換を図る総合的な整備を目的としたもので、計画フレームは、地区面積・約 120ha、居住人口・約 30,000 人（全体約 10,000 戸）、就業人口・約 40,000 人、利用人口・約 150,000 人とし、1995(平成 7)年度から建設が始まった。

HAT 神戸全体 (120ha) のうち、阪神高速道路以南の臨海部地区 (約 75ha) については、土地区画整理事業により、緊急かつ大量の住宅供給や「WHO 神戸センター」をはじめとする都市機能の導入を図る道路等の基盤整備が進められ 2004 (平成 16) 年 3 月に完了した。

また、地域内には「阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター」や「兵庫県立美術館」なども設置されている。

● 「脇浜町 (わきのはまちょう)・脇浜海岸通 (わきのはまかいがんどおり)」の由来

今でも脇浜の東側の高台に敏馬 (みぬめ) 神社 (灘区岩屋中町 4) があるが、この神社のある高台を敏馬の崎といった。大輪田ノ泊が栄える前、奈良時代前期にはここ敏馬の浦が港として栄えていた。この敏馬の崎の脇にある浜というところから「脇浜」と名付けられた。